

### 3 高貴な乙女

この世の騎士たちがこぞってある乙女に求婚した  
最も輝き 最も誇り高き乙女  
屈強な有力者たち 若き歌い手たちが言い寄った  
だが高貴な乙女に見合う者はいなかった

乙女は高飛車に言う「私の夫となるものは 5  
征服者の中の征服者  
君主にふさわしい屋敷を私に与えてくれる者  
高貴な乙女である私に それ以外の者はいらぬ」

そう言う<sup>さげす</sup>と蔑むような目で辺りを見回し  
身分の高い騎士や貴族を見下ろした 10  
皆は卑屈さと絶望感を胸にその場を離れ  
高貴な乙女を遠くから羨望のまなざしで見つめるのみ

ついにある時 遠方より騎士が求婚にやってきた  
泡立つ海のように白い羽を兜につけて  
<sup>めんぼお</sup>面頬<sup>おろ</sup>を下し しびれるような声で 15  
高貴な乙女に誓いの言葉をささやいた

「誇り高き乙女よ そなたと世にも立派な婚礼を挙げよう  
我こそ征服者の中の征服者  
王として 君主にふさわしい屋敷にそなたを迎えよう  
高貴なる乙女よ そなたを永遠に我がものとしよう」 20

乙女は微笑み 宝石で身を飾り  
豪華絢爛な玉座や王冠を夢みていた  
花婿に導かれ 誇らしげな歩みで  
高貴な乙女は 威厳を誇示して屋敷へ向かった

「ところでここはどこかしら」大きな声で乙女は尋ねる 25

「墓やイトスギの木以外 何もないわね  
まさかここではないでしょう 私と式を挙げるのは」  
高貴な乙女は侮蔑混じりにこう言った

騎士は答えた 「これがこの世の征服者の屋敷だ」

騎士が兜を取って乙女に素顔を見せると  
乙女は大地に倒れこんだ それは <sup>しやれこうべ</sup> 髑 髏 の顔  
高貴な乙女の夫となったのは死神だった

30

(三木菜緒美訳)